

# 病原微生物・マイクロバイオーーム学研究室（岡本研）

岡本研究室では、細菌感染症ならびに細菌と非感染性疾患発症との関連をテーマに研究を進めています。

## 腸球菌、レンサ球菌の感染、病原性に関する研究

グラム陽性球菌である腸球菌、レンサ球菌は我々に様々な感染症を惹起させる他、近年では薬剤耐性による難治化の問題も指摘されています。我々は、腸球菌、レンサ球菌の感染の第一歩である宿主への定着ならびに、感染症発症の原因となる病原性の詳細について研究しています。これらの研究成果を用いて、これらの細菌に対する新たに効果的な感染制御や感染予防方法の確立を目指します。

## 細菌叢の構成変化（ディスバイオーシス）と非感染性疾患発症との関連解明に関する研究

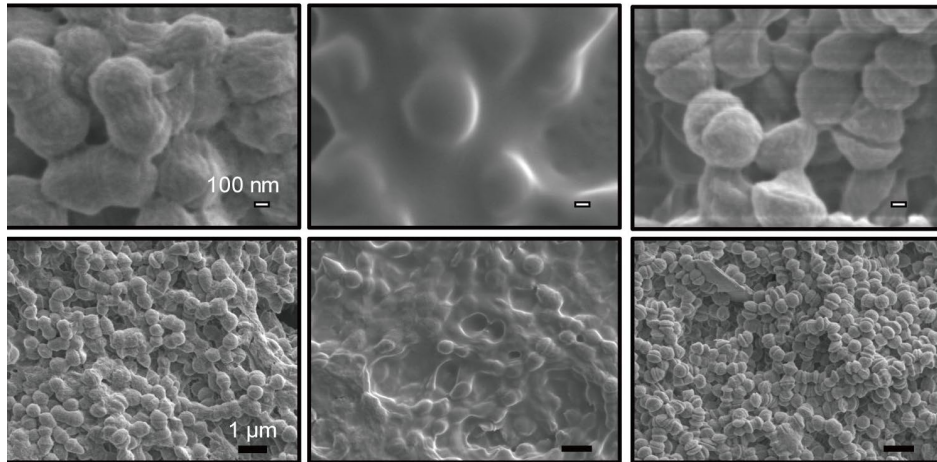
我々の身体の中にはたくさんの細菌種が細菌叢（マイクロバイオーーム）を形成し、共生しています。その中で、腸管のマイクロバイオーームの構成変化（ディスバイオーシス）が非感染性疾患（生活習慣病や免疫疾患、がん等）の発症に関連する可能性が考えられています。我々は、これらの疾患とディスバイオーシスとの関連を明らかにし、腸内環境の改善から疾患発症予防の実現に取り組んでいます。

研究室URL：

<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/departments/iryogijyutu-byougen-micro.html>

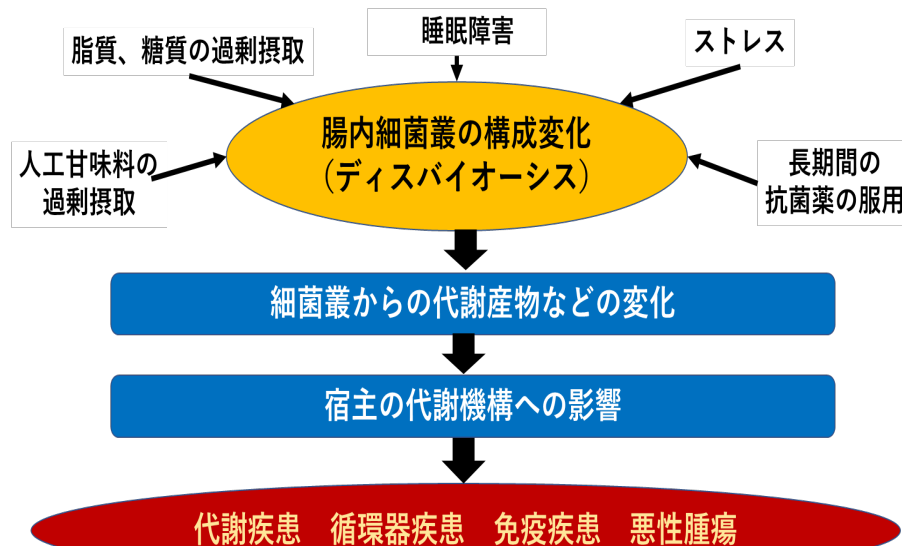
研究室連絡先（岡本成史教授）

[sokamoto@saahs.med.osaka-u.ac.jp](mailto:sokamoto@saahs.med.osaka-u.ac.jp)  
(at)を@に変換してください



細菌感染症の発症の第一歩は生体内での細菌の付着とバイオフィーム形成にあります。同じレンサ球菌種でも真ん中の写真のように細菌の周りに形成されるバイオフィームが多いと病原性が増強される傾向にあります。

### ● ディスバイオーシス



代謝疾患 循環器疾患 免疫疾患 悪性腫瘍